第３章　石狩管内大学の学生へのインタビュー調査

１　調査概要

（１）調査内容

・上記アンケートの掘り下げを目的として、石狩管内の大学に通う大学 3～4 年生に学生生活の満足度、コロナ禍での生活、就職先の希望、働き方への考え方等を尋ねるインタビュー調査を実施した。

（２）実施状況

以下の大学の 3 年生及び 4 年生の計 19 名から聴取した。

・札幌大学（経営学専攻 3 名）
・北海道科学大学（未来デザイン学部 4 名、工学部 4 名）　※2 グループで実施
・北星学園大学（経営学専攻 4 名）
・北海道大学（工学部 1 名、法学部 1 名、経済学部 1 名、理学部 1 名）

（３）実施期間

・令和 4 年 1 月（各 1 時間程度）

２　実施結果

（１）コロナ禍での生活

〇授業・ゼミ

・令和 2 年度からオンライン授業中心に移行した。最初は戸惑ったが慣れた。
・オンライン授業に慣れてくると、顔が映らないことで怠けることや、ずっと画面を見続けることがストレスに感じることがあった。
・文系の授業はオンラインでも授業内容に大きな支障はない。理工系の場合、実験ができず、先生が実験しているのをオンラインで見るだけという授業もあった。
・ゼミの仲間と直接会うことがなく、お互いのことを話す機会は限られていた

〇アルバイト

・コロナ禍でアルバイト先が見つからず、アルバイトをしなかった。
・アルバイト先が倒産してしまった（コールセンター）。
・コンビニでアルバイトをしていたが、コロナ禍の影響はあまり感じなかった。
・宿泊施設での就職を考え、宿泊施設でアルバイトをしていたが、コロナ禍での閑散とした状況や業績悪化により、正社員の方が辛そうにしているのを見て、別の業種での就職を考えるようになった。
・アルバイト先の上司から就職のアドバイスをもらった。相談する相手が少なかったの

で貴重な機会だった。

〇サークル活動
・活動が制限され、満足に活動できなかった。
・オンラインで会話するなどの交流はしていた。
・体育会系の部活で PCR 検査を何度も受けながらの活動となった。グラウンド使用や大会参加に際し、参加者名簿や PCR 検査の結果等の申告が必要だったので、作業が増えてしまった。感染を避けながら仲間と大会に参加できたのは嬉しかった。

〇その他私生活
・「おうち時間」をうまく活用し、趣味や関心のある本を読むことができた。
・ゲーム三昧で無駄に過ごしてしまった。
・祖父母と同居していたので、感染させてしまうのが心配で外に出ないようにしていた。
・１年間休学してワーキングホリデーで海外へ行く予定だったが中止せざるを得なくなった。

（２）就職活動
〇勤務地の志向
・地元での就職を志望し、自分でネット検索したり、就職支援課で調べたりするなど、して、大手就職サイトで掲載されていない企業を独自に調べた。
・家族に何かあったときにすぐ駆けつけられる、東京は人混みのイメージ、一人っ子なのでといった理由で地元での就職を希望している。
・地元を離れたい、親元を離れたい、希望する業種が北海道にはあまりないといった理由で道外への就職を検討している。
・どこで仕事をするかより、入りたい企業で仕事をしたいという意向が強い（勤務地は問わない）。
・親は感染を気にして、あまり人の多いところで就職しない方がいいのではと言ってくれているが、自分は東京に行って、もっと広い世界を見たいという気持ちが強い。

〇コロナ禍での志望業種の変化など
・宿泊施設での就職を考え、宿泊施設でアルバイトをしていたが、コロナ禍での閑散とした状況や業績悪化により、正社員の方が辛そうにしているのを見て、別の業種での就職を考えるようになった。（再掲）
・飲食店でアルバイトをしていたので、飲食業への興味もあったが、コロナ禍で休業となったこともあり、就職先としての関心が薄れた。

・お店が休業したり閉店したりするのを目の当たりにして、安定した公務員への志向が強まった。
・リモートで仕事ができる業種への関心が高まった。子供ができても、リモートだと働きやすいと思う。
・コロナ前は職業観はなかったが、コロナ禍でいろいろ調べているうちに、文系でもIT系企業への就職が可能であることがわかった。

〇インターンシップ
・インターンシップが中止またはオンライン化して、実際に企業で仕事をする機会がなかった。
・オンラインのインターンシップだと、一緒に参加している人とのコミュニケーションも取りにくく、あまり親しくなれなかった。会社の雰囲気もわからなかった。
・道外の専門商社で Web マーケティングのインターンシップに参加した。オンラインだったが、コロナ禍で半年間参加することができて、有意義であった。
・公務員のインターンシップ機会がほとんどなかった。

〇合同企業説明会
・大学で実施される合同企業説明会は良かった。４年生しか参加できず、３年生以下でも参加できるともっと良かった。

〇情報収集
・大手就職サイトで志望企業を探した（ほぼ全員）。自分の居住する（石狩管内の札幌市以外の）市町村の企業の情報はあまり出てこない（知る機会もない）。
・公務員試験の情報が少ない。特に技術系専門職は過去問もなく、どう準備していいかわからない。
・地元企業の情報がほとんどない。ホームページを見てもよくわからない。
・大学の就職支援部署では企業情報を見ることができるが、あまり利用しなかった。主にエントリーシートの書き方、面接での留意点等を教えてもらった。
・密回避のために就職支援部署が予約制になっており、利用したい時に利用できないことがあった。
・理工系の学部の場合は、共同研究を行っている企業のＯＢが大学の教授等になる場合があり、その教授の研究室の卒業生がその共同研究先の企業に入社するといったことがよくある。自分が志望する企業のことをよく知っている教授が学内にいるのであれば、是非話を聞いておきたいところだが、どの教授がどの企業について詳しいのかという情報は、学内で共有されていない。
・建設業の従業員は男性社員が多く、女性社員の情報があまり入ってこない。女性目線

での話を聞く機会があればと感じている。
・アルバイト先の上司にいろいろ相談してアドバイスをもらっていた。（再掲）
・オンラインの合同企業説明会は、雰囲気が伝わりづらいということはあるものの、気軽に参加できるという点では良かったと思う。

（３）後輩へのメッセージ

・公務員試験、SPI 等の試験準備は早めに始めた方がよい。
・人脈を作るように努力してほしい。就活時に必ず役に立つ。
・今後の感染状況によっては、おうち時間が増える可能性もある。趣味は必要。有意義に過ごしてほしい。

（４）行政への要望

・相談する相手が限られるので、相談相手になってくれるような取組があると良い。
・地元企業の情報がわかるような取組があると良い。
・公務員志向が高まっており、札幌市などは狭き門。近隣の役所・役場への就職も選択肢に入れているので、試験情報、インターンシップなどを充実してもらえると有り難い。
・同じゼミ生でもコロナ禍ではあまり話をする機会もないので、このようなインタビューは非常に良い機会であった。

第４章　石狩管内・首都圏の企業調査

１　調査の概要

（１）調査内容

・石狩管内と首都圏の企業（人事担当者等）に対し、採用状況、就活生のニーズへの考え方、テレワーク実施状況等を尋ねる意識調査を実施した。

（２）実施方法

・SNS ユーザーに対し回答者を募集し、ネット画面を通じ回答してもらった。

・石狩管内企業に関しては、別途調査票をメール送信し、Web 画面で回答してもらった。

（３）回収状況

・石狩管内 127 社、首都圏 105 社より回答を得た。

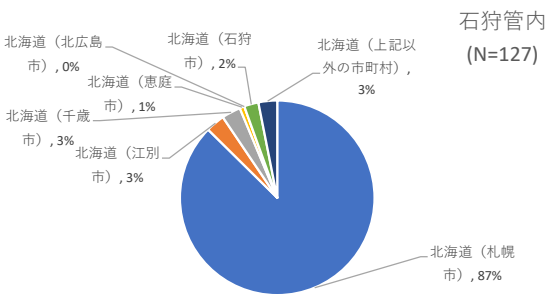
２　調査結果

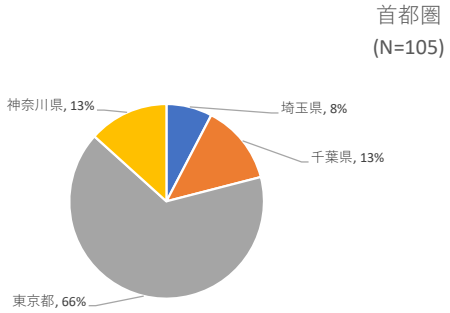
（１）基本属性

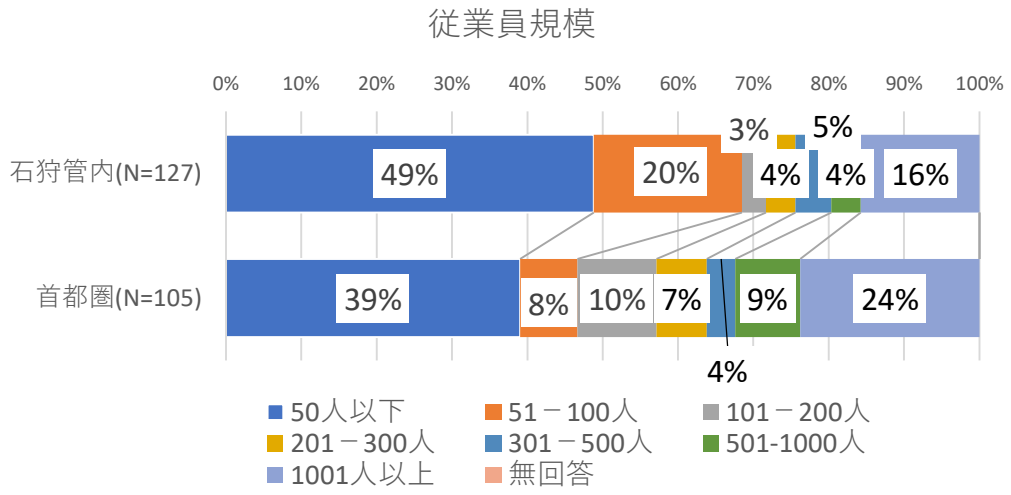
・所在地は、石狩管内は「札幌市」が 87%、首都圏は「東京都」が 66%を占める。

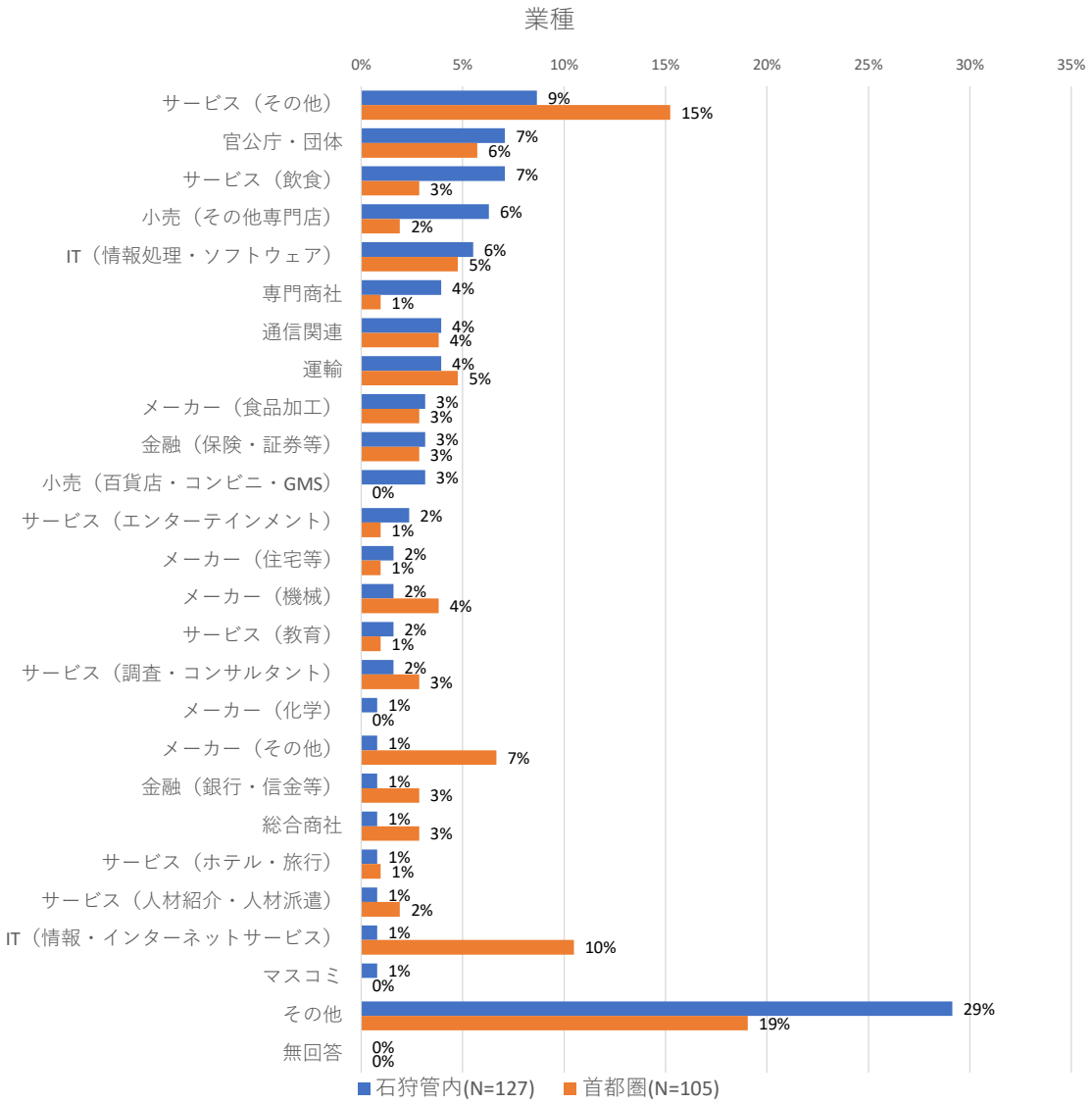
・従業員規模は、石狩管内は「50 人以下」が 44%、首都圏は同じく「50 人以下」が 39%を占める。

・業種は、石狩管内は「サービス（その他）」（9%）、「官公庁・団体」、「サービス（飲食）」（ともに 7%）の順となっている。首都圏は、「サービス（その他）」（15%）、「IT（情報・インターネットサービス）」（10%）、「メーカー（その他）」（7%）の順となっている。





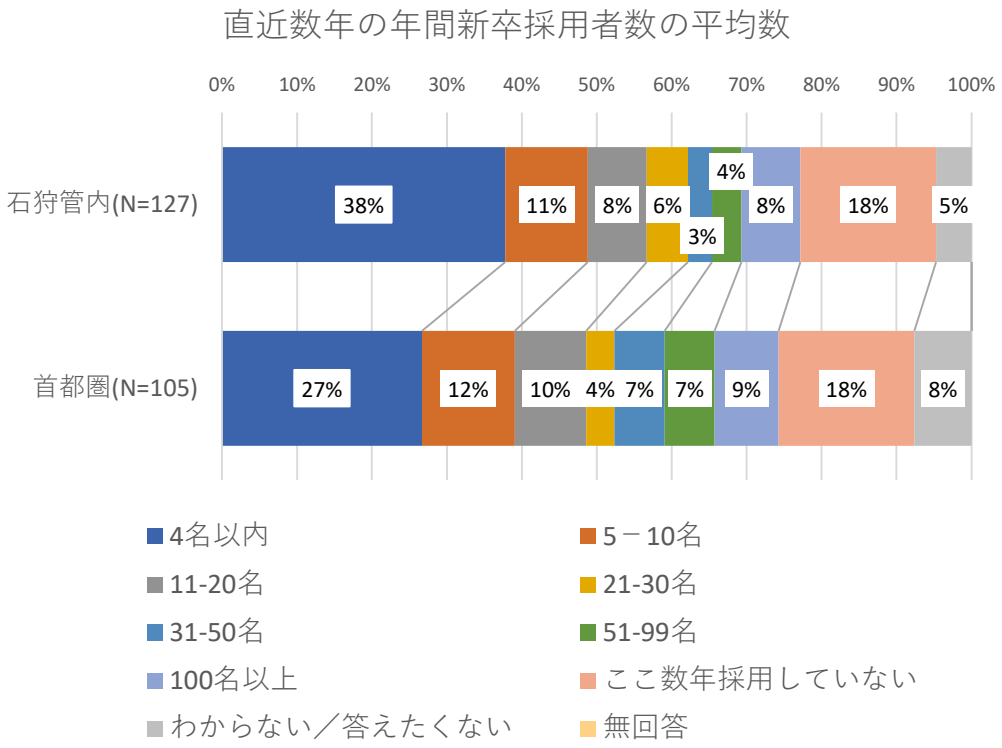

従業員規模
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
石狩管内(N=127)
首都圏(N=105)
49%
20%
3%
4%
5%
4%
16%
39%
8%
10%
7%
4%
9%
24%
50人以下
51－100人
101－200人
201－300人
301－500人
501-1000人
1001人以上
無回答


業種
0%
5%
10%
15%
20%
25%
30%
35%
サービス（その他） 9% 15%
官公庁・団体 7% 6%
サービス（飲食） 7% 3%
小売（その他専門店） 6% 2%
IT（情報処理・ソフトウェア） 6% 5%
専門商社 4% 1%
通信関連 4% 4%
運輸 4% 5%
メーカー（食品加工） 3% 3%
金融（保険・証券等） 3% 3%
小売（百貨店・コンビニ・GMS） 3% 0%
サービス（エンターテインメント） 2% 1%
メーカー（住宅等） 2% 1%
メーカー（機械） 2% 4%
サービス（教育） 2% 1%
サービス（調査・コンサルタント） 2% 3%
メーカー（化学） 1% 0%
メーカー（その他） 1% 7%
金融（銀行・信金等） 1% 3%
総合商社 1% 3%
サービス（ホテル・旅行） 1% 1%
サービス（人材紹介・人材派遣） 1% 2%
IT（情報・インターネットサービス） 1% 10%
マスコミ 1% 0%
その他 29% 19%
無回答 0% 0%
石狩管内(N=127)
首都圏(N=105)

（２）採用状況

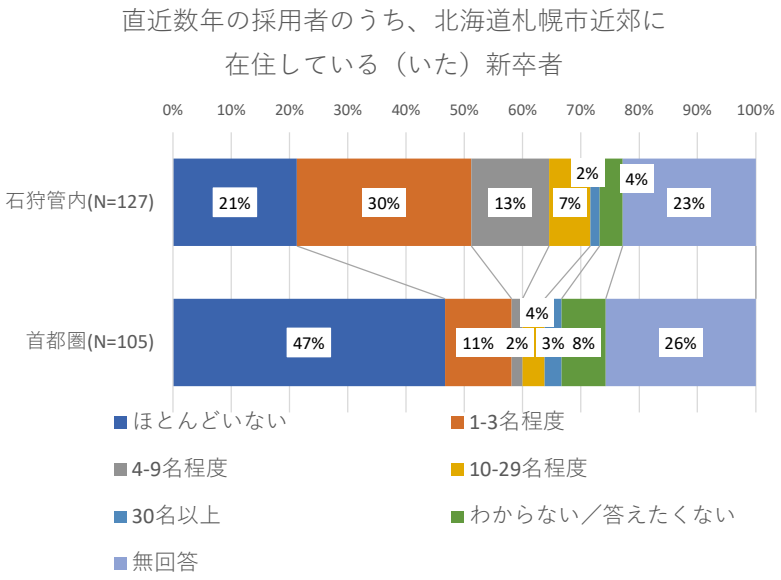
①採用人数

・石狩管内の企業は「4 名以内」が 38%、首都圏の企業は同じく「4 名以内」が 27%で最も多くなっている。



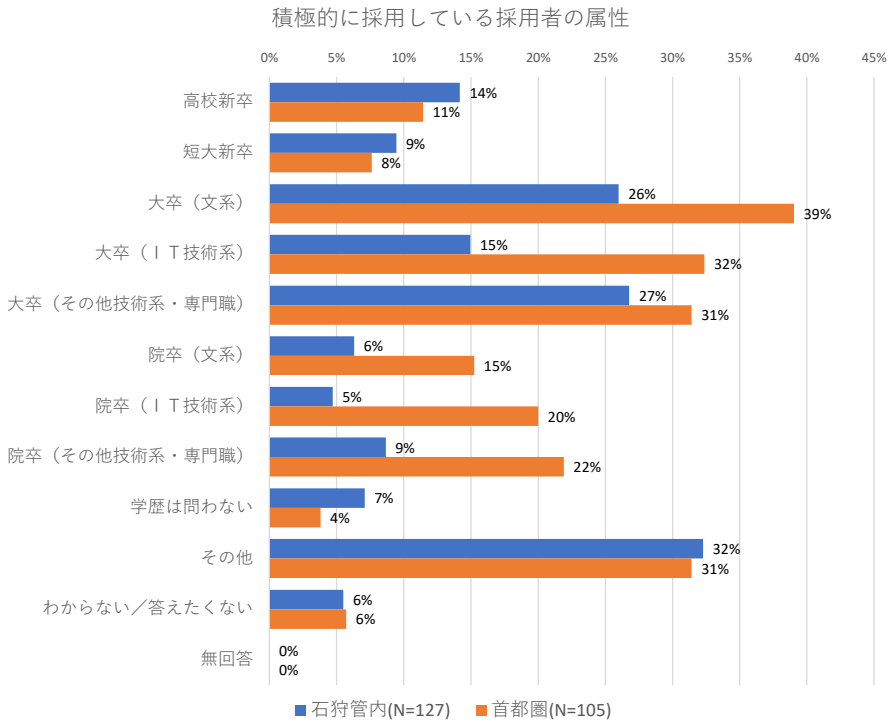
②札幌市近郊に在住している（いた）新卒者の採用人数

・札幌市近郊に在住している（いた）新卒者の採用は、石狩管内の企業は「1～3 名程度」が 30%、首都圏の企業は「ほとんどいない」（47%）がそれぞれ最も多くなっている。



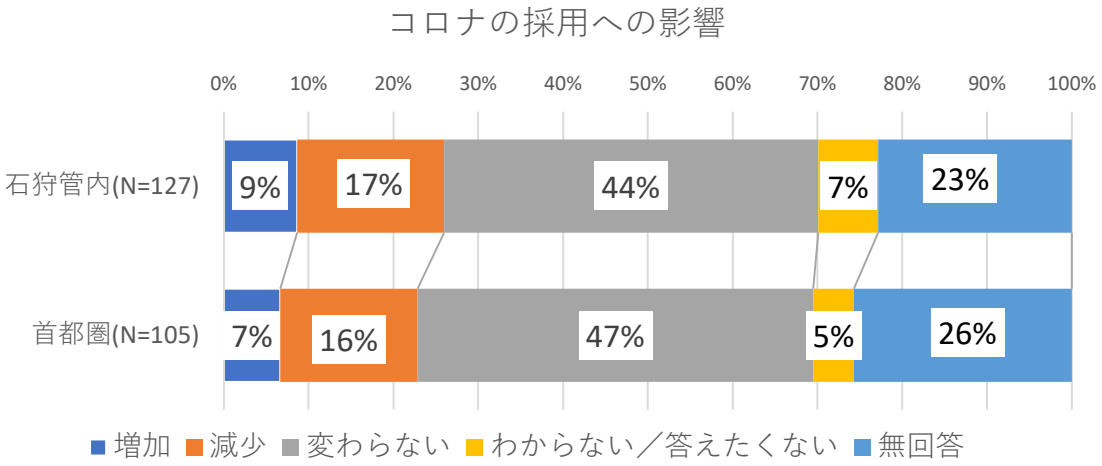
③積極的に採用している採用者の属性

・積極的に採用している採用者の属性は、石狩管内・首都圏企業ともに「大卒（文系）」が最も多くなっている。



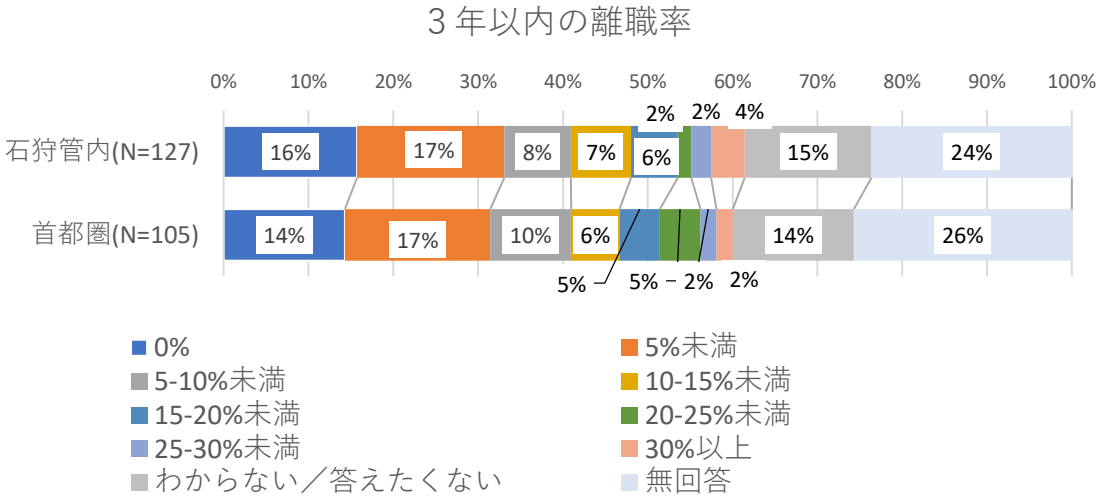
（３）新型コロナウイルス感染症の採用への影響

・「変わらない」が最も多い（石狩管内の企業 44%、首都圏の企業 47%）
・「増加」、「減少」の割合も石狩管内・首都圏の企業の間で大きな差はみられない。



（４）3 年以内の離職率

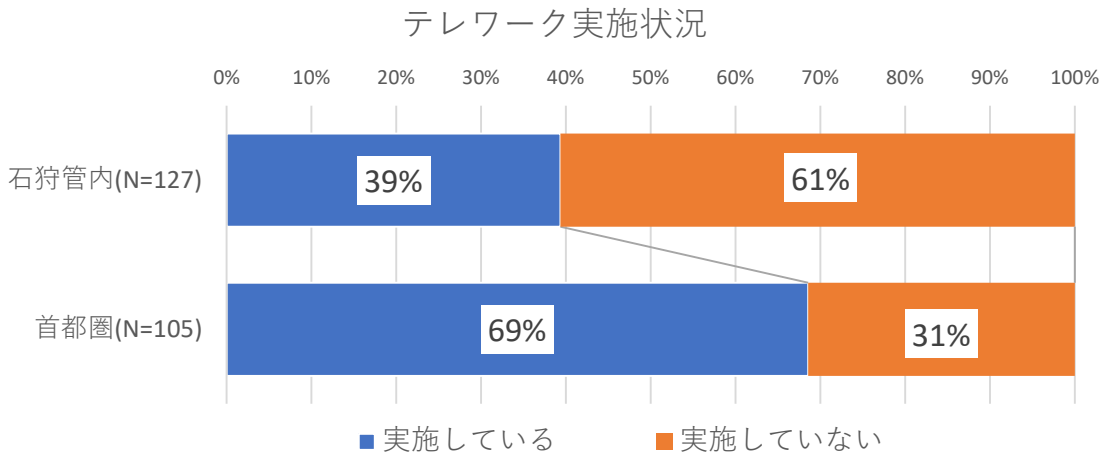
・「0%（離職者なし）」と「5%未満」の合計でみると、石狩管内の企業は 33%、首都圏の企業は 31%となっている。



（５）テレワーク実施状況

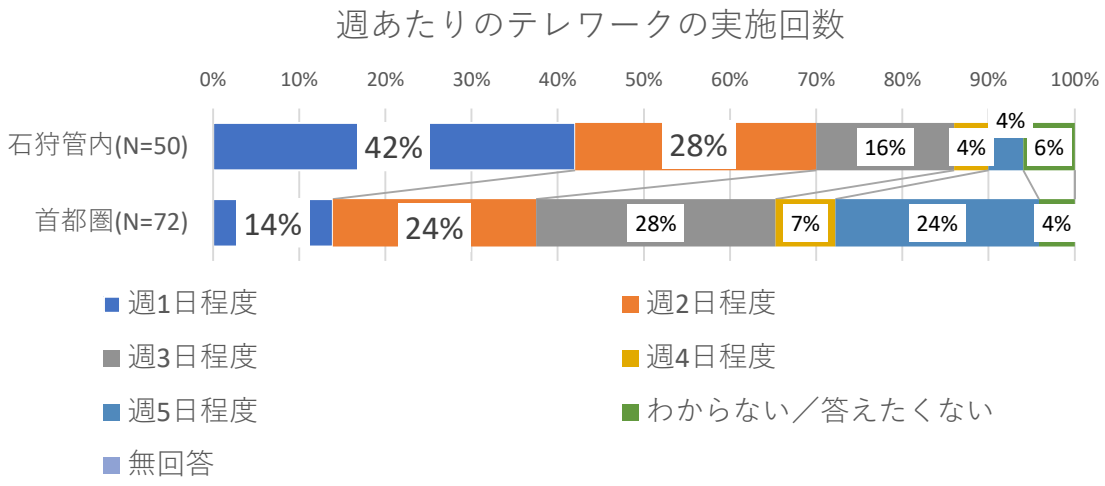
①実施状況

・「実施している」とする回答は、石狩管内の企業は 39%、首都圏の企業は 69%となっている。



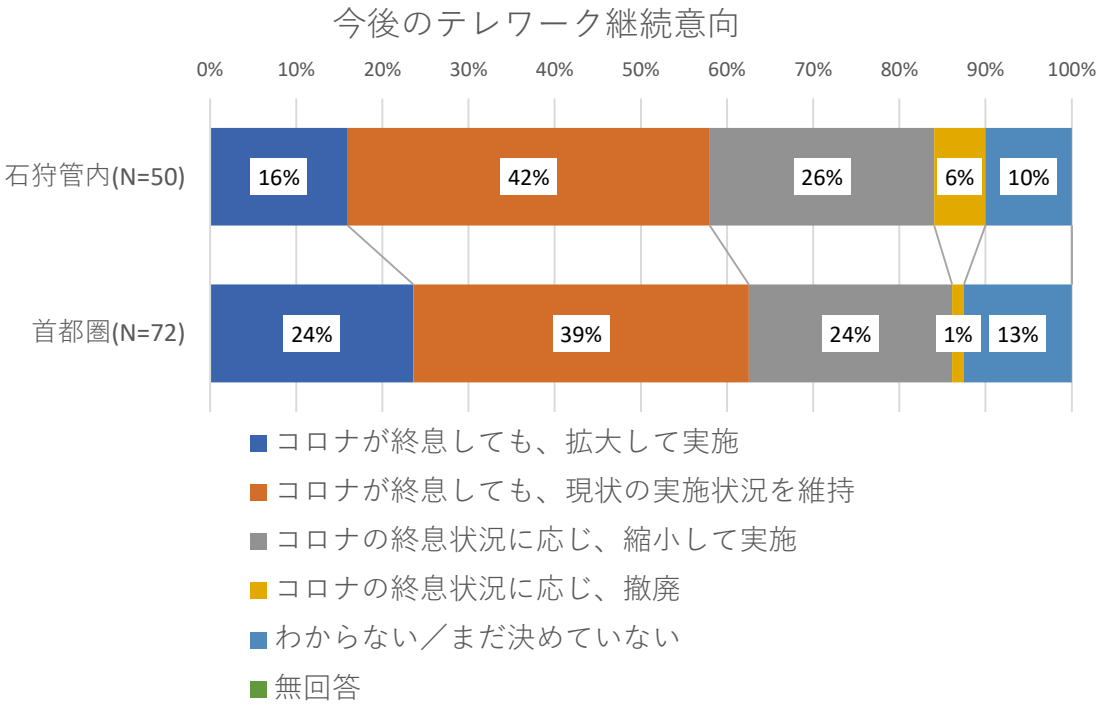
②週当たりの実施回数

・週あたりの実施回数の企業は、石狩管内の企業は「週 1 日程度」（42%）、首都圏の企業は「週 3 日程度」（28%）が最も多くなっている。



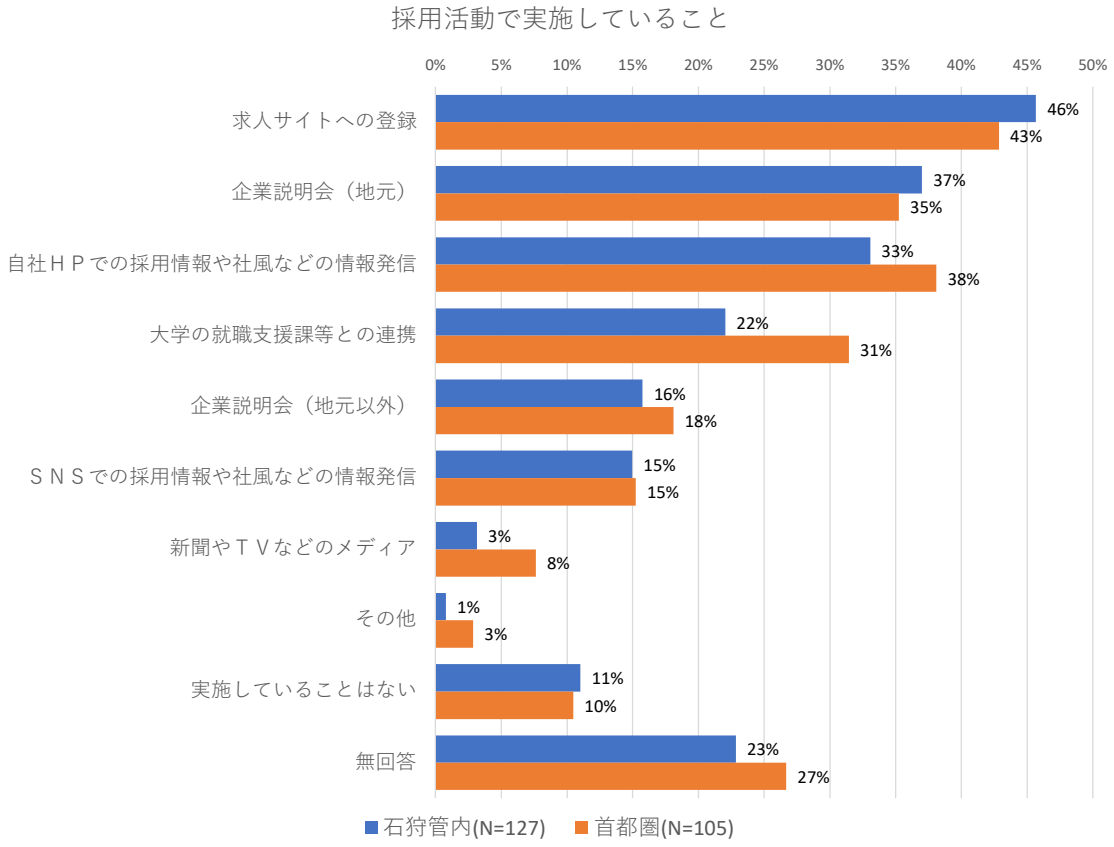
③今後の継続意向

・テレワークを現在実施している企業に、今後の継続意向を尋ねたところ、「拡大して実施」とする回答は石狩管内が 16%、首都圏が 24%となっている。



（６）採用活動で実施していること（複数回答）

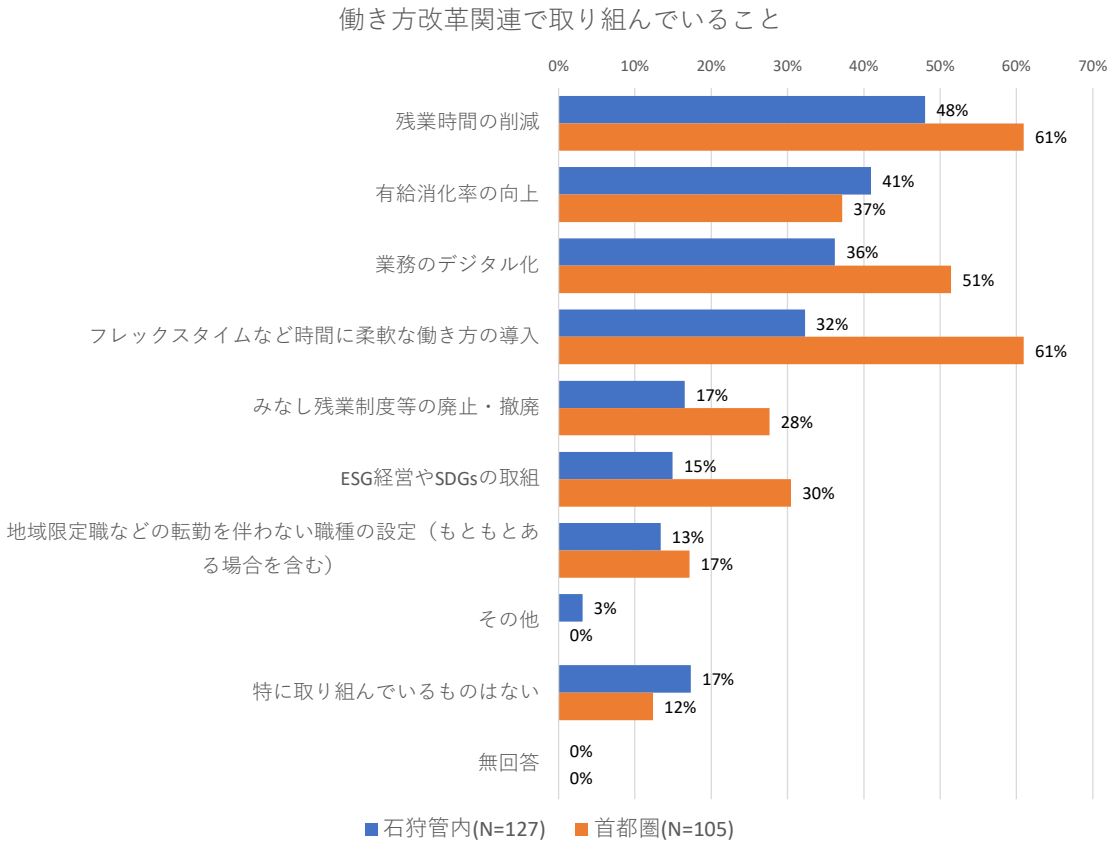
・石狩管内の企業は、「求人サイトへの登録」（46%）、「企業説明会（地元）」（37%）、「自社 HP での採用情報や社風などの情報発信」（33%）の順となっている。
・首都圏の企業は、「求人サイトへの登録」（43%）、「自社 HP での採用情報や社風などの情報発信」（38%）、「企業説明会（地元）」（35%）の順となっている。



（７）働き方改革関連

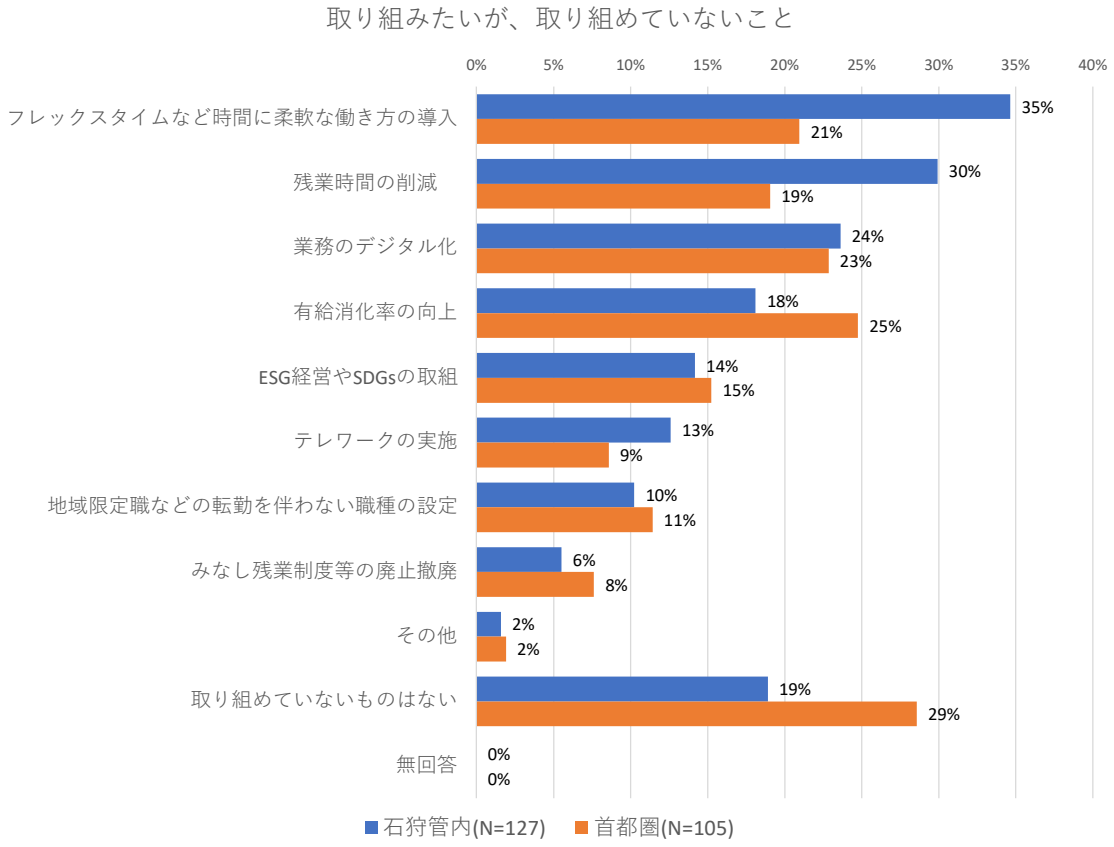
①取り組んでいること（複数回答）

・石狩管内の企業は、「残業時間の削減」（48%）、「有休消化率の向上」（41%）、「業務のデジタル化」（36%）の順となっている。
・首都圏の企業は、「残業時間の削減」、「フレックスタイムなど時間に柔軟な働き方の導入」（ともに 61%）、「業務のデジタル化」（51%）の順となっている。
・「フレックスタイムなど時間に柔軟な働き方の導入」で首都圏の企業（61%）と石狩管内の企業（32%）の差が大きくなっている。



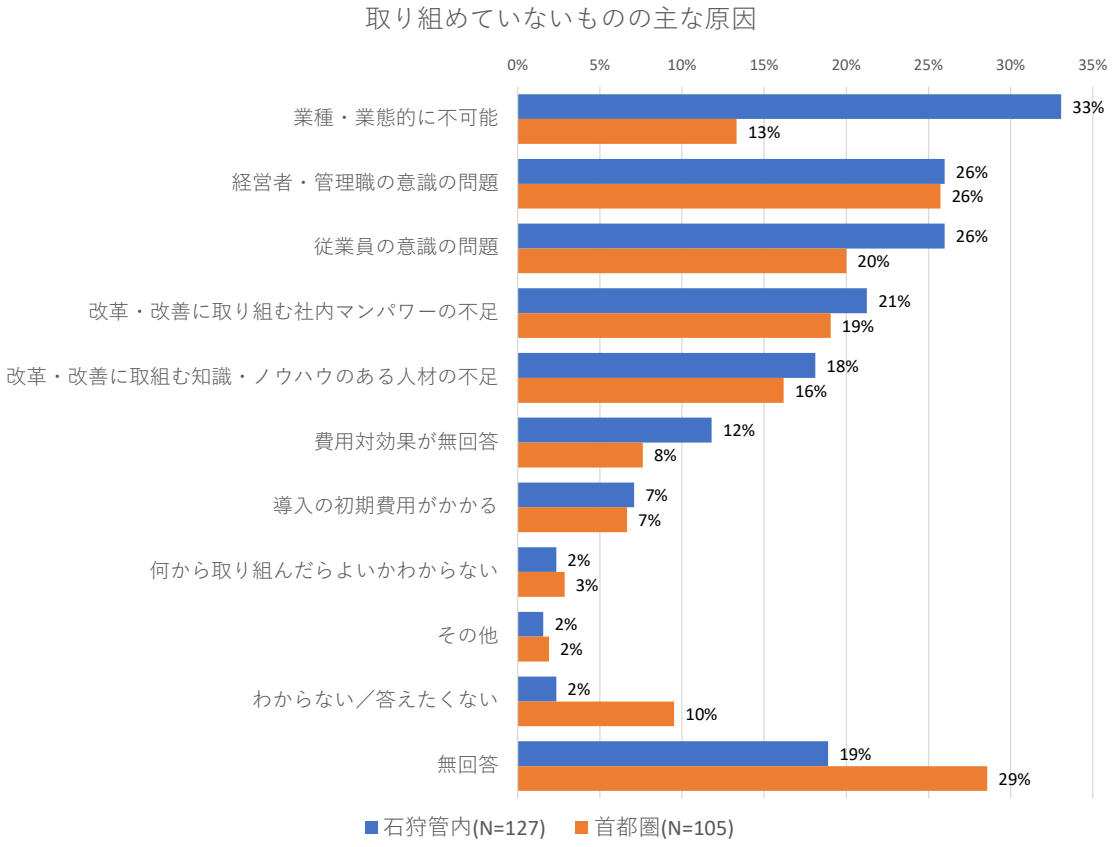
②取り組みたいが、取り組めていないこと（複数回答）

・石狩管内の企業は、「フレックスタイムなど時間に柔軟な働き方の導入」（35%）、「残業時間の削減」（30%）、「業務のデジタル化」（24%）の順となっている。
・首都圏の企業は、「有休消化率の向上」（25%）、「業務のデジタル化」（23%）、「フレックスタイムなど時間に柔軟な働き方の導入」（21%）の順となっている。



③取り組めていないものの主な原因（複数回答）

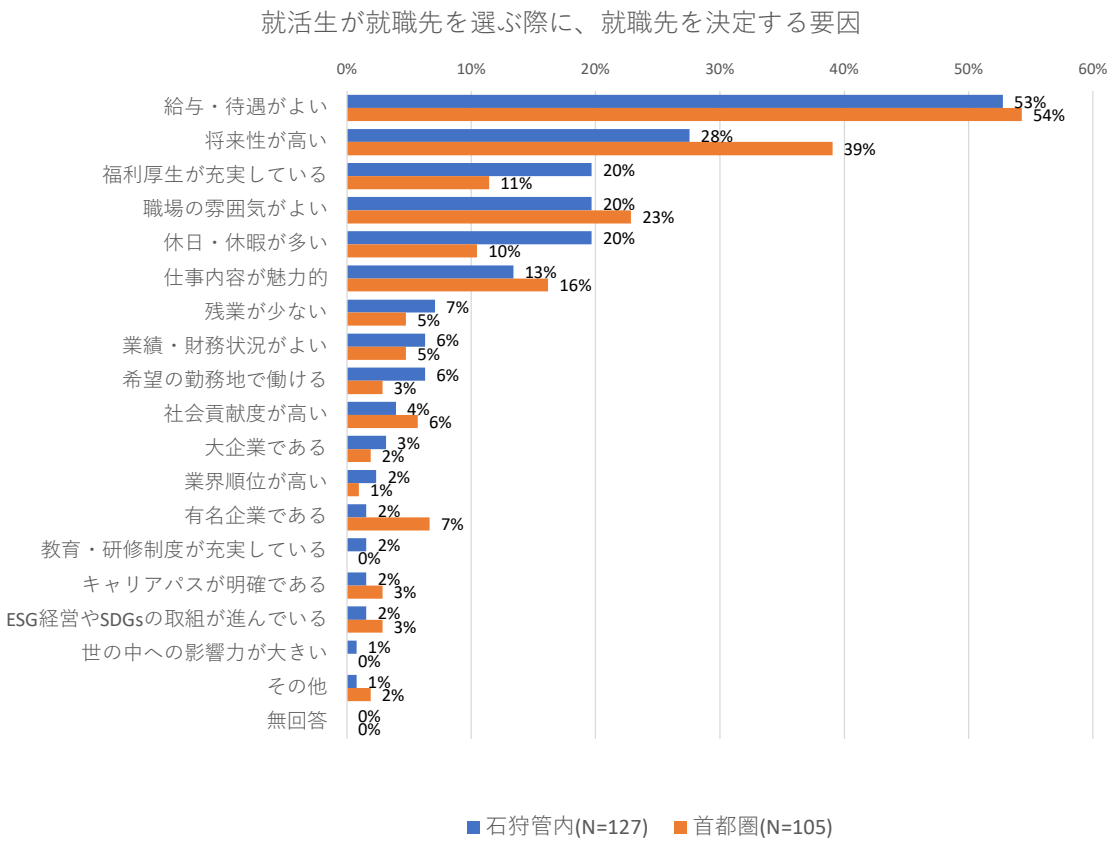
・石狩管内の企業は、「業種・業態的に不可能」（33%）、「経営者・管理職の意識の問題」、「従業員の意識の問題」（ともに 26%）の順となっている。
・首都圏の企業は、「経営者・管理職の意識の問題」（26%）、「従業員の意識の問題」（20%）、「改革・改善に取り組む社内マンパワーの不足」（19%）の順となっている。



（８）就活生が就職先を選ぶ際の基準に関する企業側の認識

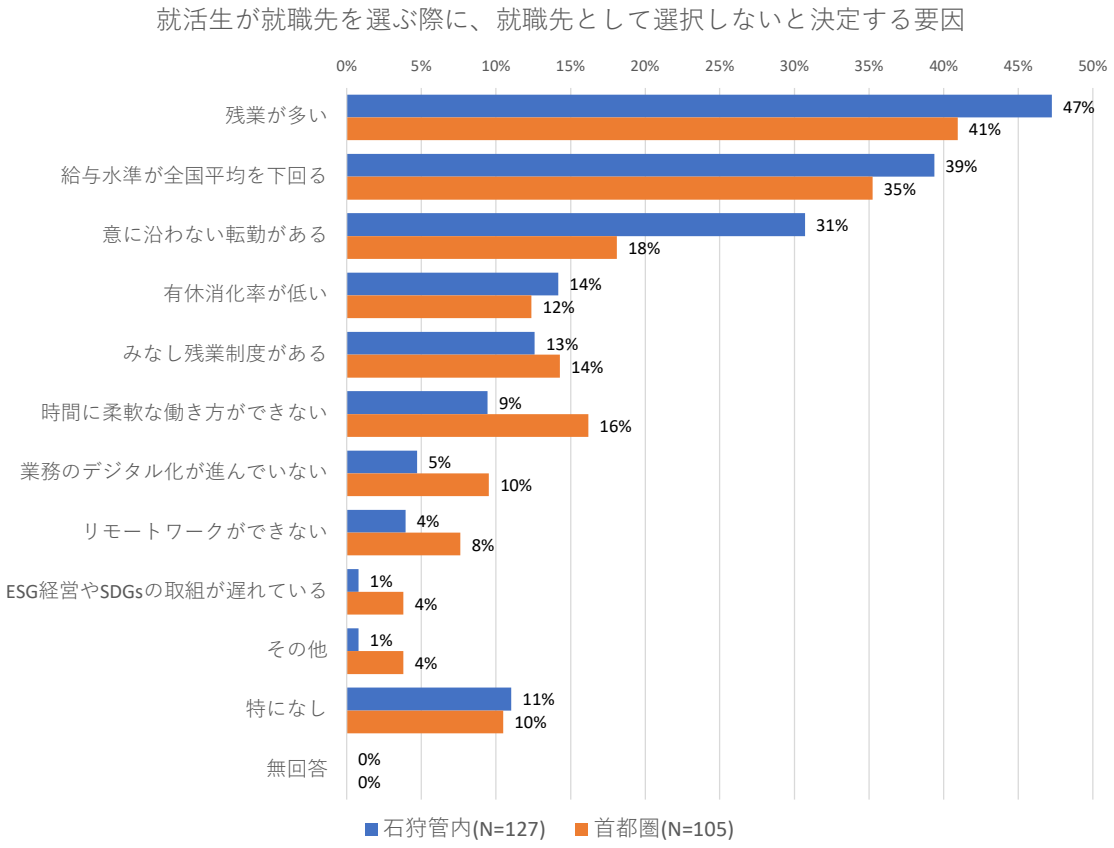
①就活生が就職先を選ぶ際に、就職先を決定する要因（企業側の認識）（複数回答）

・石狩管内の企業は「給与・待遇がよい」（53%）、「将来性が高い」（28%）、「福利厚生が充実している」「職場の雰囲気がよい」「休日・休暇が多い」（ともに 20%）の順となっている。
・首都圏の企業は「給与・待遇がよい」（54%）、「将来性が高い」（39%）、「職場の雰囲気がよい」（23%）の順となっている。
・「将来性が高い」について、首都圏の企業（39%）と石狩管内の企業（28%）に差が見られる。
・学生が就職先を選ぶ際の基準の上位項目と比較すると、概ね一致している。



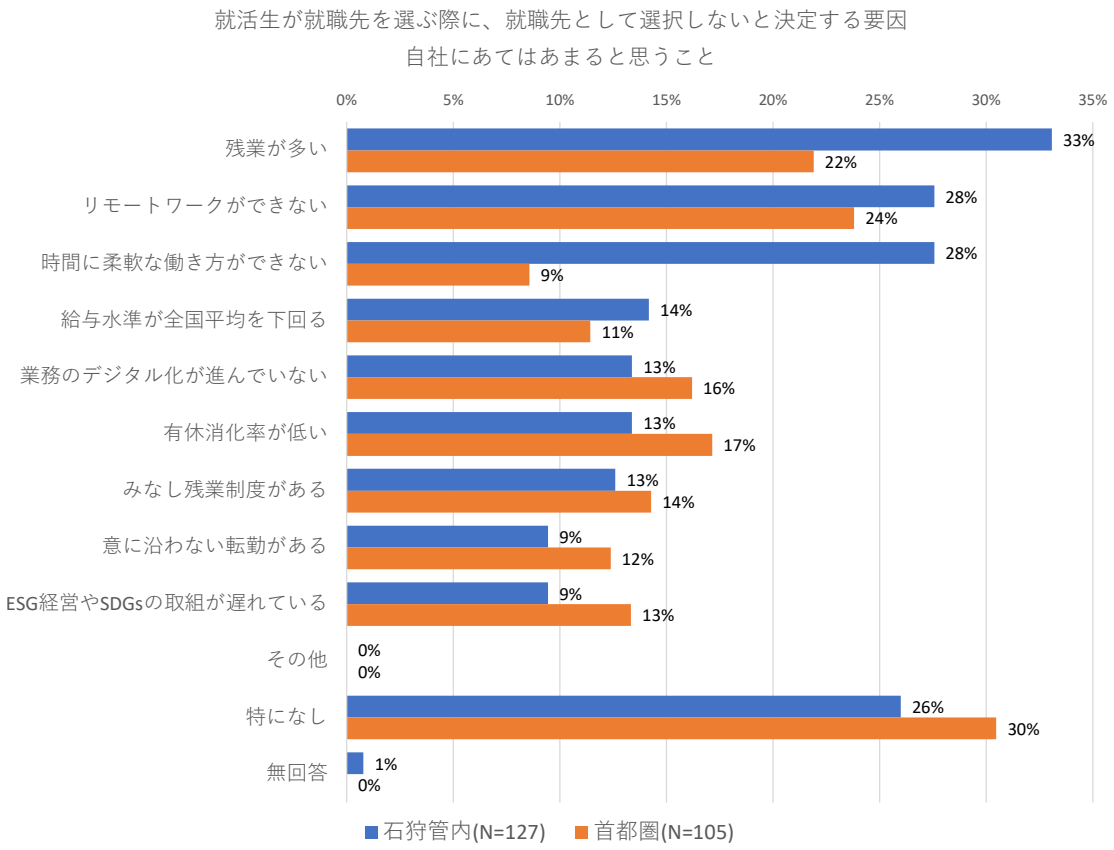
②就活生が就職先を選ぶ際に、就職先を選択しないと決定する要因（企業側の認識）（複数回答）

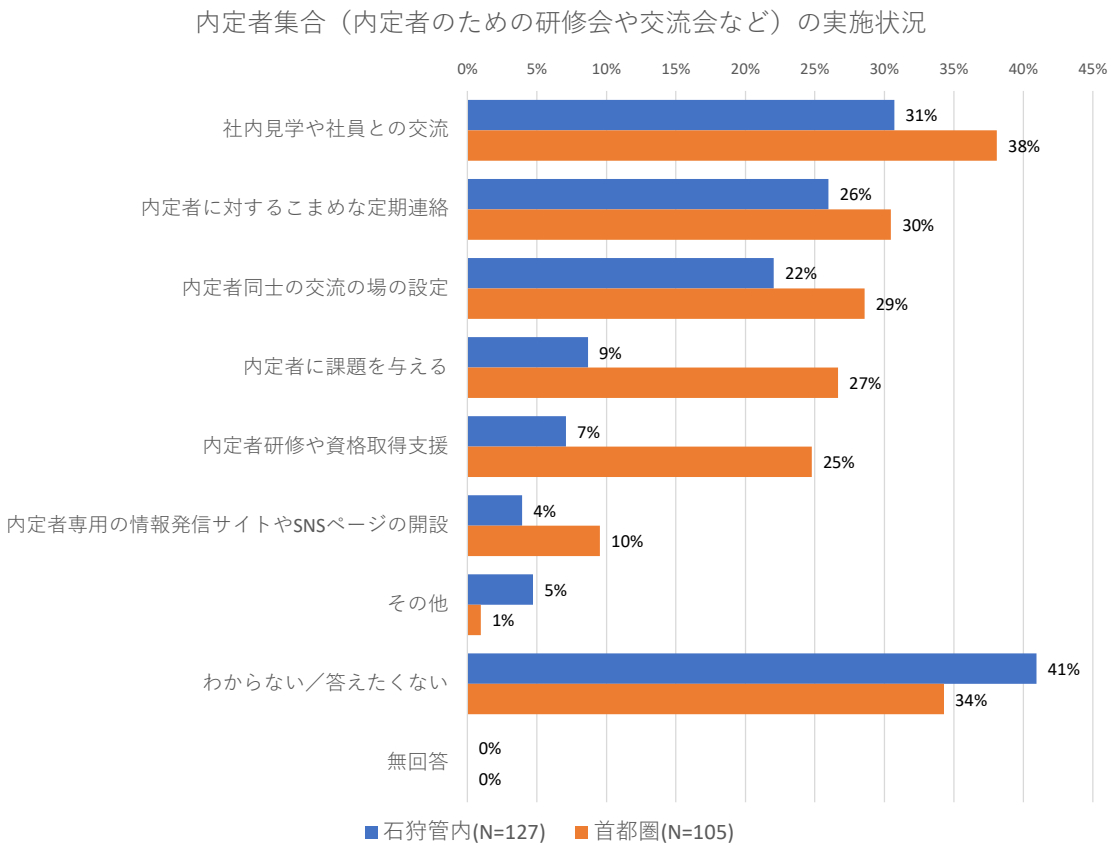
・石狩管内の企業は、「残業が多い」（47%）、「給与水準が全国平均を下回る」（39%）、「意に沿わない転勤がある」（31%）の順となっている。
・首都圏の企業は、「残業が多い」（41%）、「給与水準が全国平均を下回る」（35%）、「意に沿わない転勤がある」（18%）の順となっている。
・「意に沿わない転勤がある」について、首都圏の企業（18%）と石狩管内の企業（31%）に差がみられる。



③前設問のうち、自社にあてはまると思うもの（複数回答）

・石狩管内の企業は、「残業が多い」（33%）、「リモートワークができない」「時間に柔軟な働き方ができない」（ともに 28%）の順となっている。
・首都圏の企業は、「リモートワークができない」（24%）、「残業が多い」（22%）、「有休消化率が低い」（17%）の順となっている。
・「時間に柔軟な働き方ができない」について、首都圏の企業（28%）と石狩管内の企業（9%）に差が見られる。
・学生アンケート結果（第 2 章（4）⑤の設問）と比較すると、「残業」「給与・待遇」といった点が重視されるという認識は学生と企業の間で一致している。



（９）内定者集合（内定者のための研修会や交流会など）の実施状況（複数回答）

・石狩管内の企業は「社内見学や社員との交流」（31%）、「内定者に対するこまめな定期連絡」（26%）、「内定者同士の交流の場の設定」（22%）の順となっている。
・首都圏の企業は「社内見学や社員との交流」（38%）、「内定者に対するこまめな定期連絡」（30%）、「内定者同士の交流の場の設定」（29%）の順となっている。
・石狩管内と首都圏の企業を比較すると、傾向に大きな差はないが、各項目の値は首都圏の企業の方が多くなっている。